

陳情第7号核兵器禁止条約に署名・批准を国に求める意見書提出についての陳情について反対の立場で討論します。

国際情勢や日本を取り巻く情勢は、現在大変厳しい状況であり、北朝鮮のミサイル発射や中国による台湾有事、ロシアによる核の脅し等、緊迫感が増大しています。

現在日本は核の傘により、辛うじて平安が保たれているのが現状です。

世界各地では、戦乱が起こり、核の脅威がますます増大していることを考えると、今年のノーベル平和賞が日本の被団協に送られたことの重大性、緊迫感が分かるのではないのでしょうか。

今回の陳情は、署名・批准を求めるものとなっております。これは現状の体制に大きな変化を求めるものとなり、簡単に賛成することはできません。

日本は唯一の被爆国として、原水爆の脅威、悲惨さを知っています。だからこそ、核兵器保有国と核兵器反対の国との間の調整役としての役割を果たすことが使命ではないかと考えます。

核の抑止力の問題、核を持つ国と持たざる国の格差など、また新たに核の開発を推し進める国と、大きな問題がある中で、核廃絶の道筋をつくることが大事ではないかと考え、この陳情に反対いたします。